

肝炎ウイルス検査で早期発見!!

～知ろう!B型・C型肝炎のこと～

肝炎ウイルス検査とは肝炎ウイルス、特にB型・C型ウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。

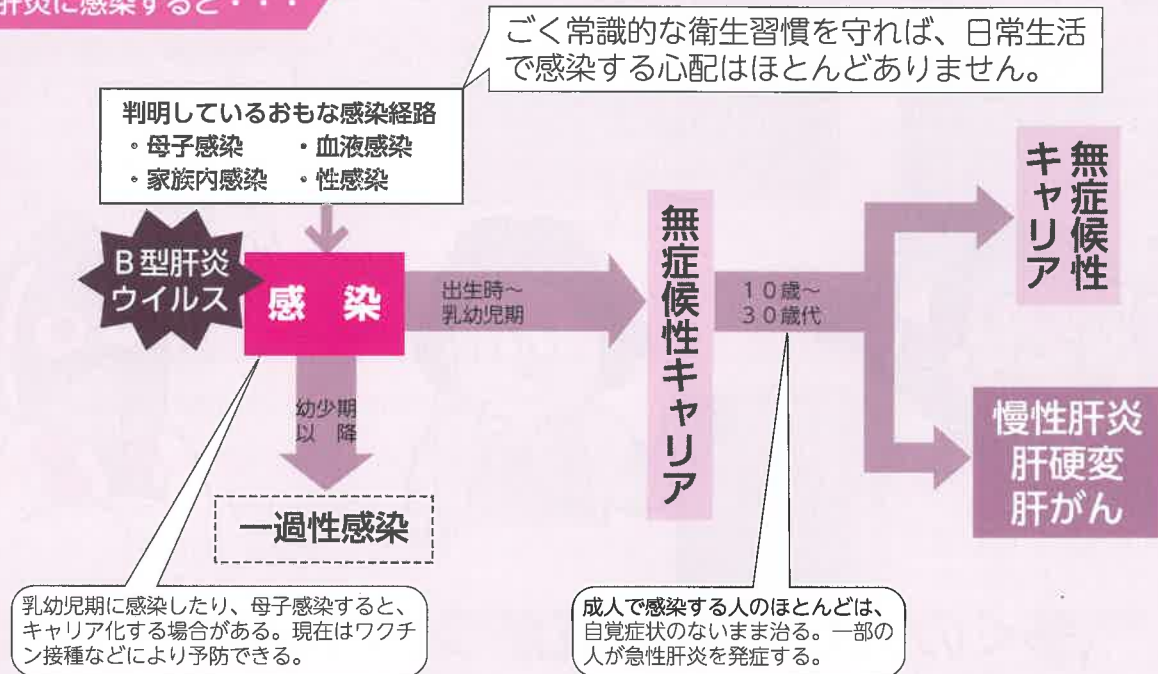
ウイルス性肝炎とは、肝炎ウイルスに感染して肝臓の細胞が壊れていく病気です。この病気になると、徐々に肝臓の機能が失われていき、ついには肝硬変や肝がんに至ることもあります。肝がんの原因の約80%がC型肝炎、約10%がB型肝炎から進行したものとされています。

肝がんの予防には、肝炎ウイルスに感染しているかどうかの早期発見と適切な治療管理が必要です。現在、B型及びC型肝炎ウイルス患者・感染者は日本全国で合わせて300万人を超えていると推定されています。また鳥取県は、肝炎ウイルス感染者が全国平均に比べて高いというデータが出ています。

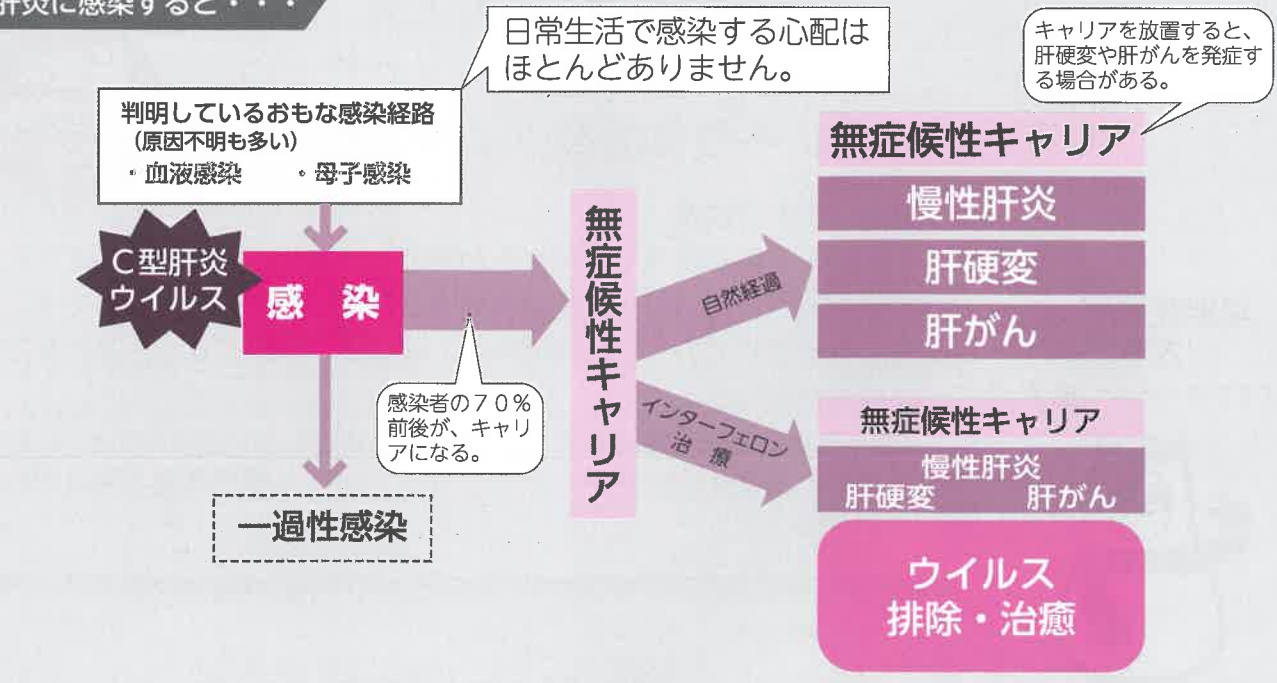
ウイルス性肝炎の種類と特徴

ウイルス性肝炎にはA～Eの型があり、国内で特に多いのはB型とC型です。

B型肝炎に感染すると・・・



C型肝炎に感染すると・・・



(参照資料) 鳥取県が配布している「肝炎検査受診しましたか?ウイルス性肝炎安心ガイド」